



コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 10

2016.7.1

～グループ活動開始！～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

サンタリタ村では8回目のワークショップを迎えました。計画・実施・振り返りの生活改善のサイクルをより良く理解してもらうため、今回もまた個人・家庭レベルでのアクションプランの計画策定をしてもらいました。前回カマドに屋根と煙突を付けたマルジェリスは、今回は食事中にテレビを消し家族との時間・対話を増やし良い関係を保つ計画を立てました。前回、屋根を新しくするという、お金がかかる改善を計画したマリアは今一度家周りの清掃から始めることにしました。孫たちと蚊の温床となるゴミを捨て始めたイサベルは、油の量を減らした仲間に触発され、今度は野菜や果物をもっと消費しバランスの良い食事をするを計画しました。生活改善の特徴として、改善は一過性のイベントには終わらず、小さな改善が次の改善に繋がり積み重ねとなります。この積み重ねのプロセスを女性達が実感するための作業となりました。

サプライズがあったのは、女性達が一番楽しみにしているアイスブレイキングの時間です。いつもは計画作りなどの作業の間に必ずファシリテーターが考えたアイスブレイキングを入れていたのですが、今回は女性達の中



の一人がアイスブレイキングを用意していたのです。一人一人が自分自身に似ている動物や植物と、その理由を発表しました。「おしゃべりなのでオウム」、「強いので、ライオン」など爆笑を誘う発表が続き、場の雰囲気は一気にリラックスしたものに。最後はアイスブレイキングを考えてきた女性が、動物と植物が自然の一部であるように、ここに参加している一人一人がとても大切である、というメッセージを伝え、アイスブレイキングを終えました。

後半は、グループのアクションプラン作りです。グループ名や活動、活動の目的、必要な材料など簡単な項目を参加者全員で話し合いながらグループで出来る改善を考えます。グループの名前は”Emprendedores”（進取の気性に富んだ人たち）と”Florecente”（花が咲いている=開花、繁栄）で迷っていましたが、最後には両方を一緒にした”Emprendedores floreciendo”（直訳：開花する積極的な人たち）に決定しました。



活動としては、ワークショップの会場にもなっているサンタリタ小学校で、栄養改善のための菜園を実施することが決まりました。参加者の過半数に就学年齢の子どもや孫がおり、学校給食の調理を担当している女性も参加者の中に2人いるため、学校菜園を通して学校給食に野菜を提供するとともに、将来的には各家庭でのより良い食生活実践のために農業について学ぶことを考えたようです。また、女性達の多くはPTAに参加しており、PTA会長、会計もいます。この組織経験が、生活改善グループの活動に活かされるのではないかと考えています。農業の経験はほとんどない女性達ですが、野菜やハーブを植えることに興味があると張り切っています。各家での家庭菜園や、野菜ではなく庭を飾る観葉植物の栽培を実施する意見も出ていたのですが、グループのアクションプランはあくまでコミュニティのためであり、課題解決のための活動であることを女性たち自身が話し合い、学校菜園にたどり着きました。

ファシリテーターの中には新しく加わった農牧省の職員がいるため技術指導は可能ですが、作物を育てるには技術だけでなく根気とコミットメントが必要です。アクションプランの必要な材料の項目にシャベルやマチェテ（山刀）だけでなくGANAS「意欲」もだよね、と盛り上がっています。次回は先進グループであるAMAGROを女性達と訪ねます。